吉康郎氏(吉建設社長)たたえる

道 産業貢献賞表彰状贈呈式

道は13日、京王プラザホテル札幌で2022年度北海道産業貢献賞(商工鉱業功労者、認定職業訓練功労者、卓越した技能者)の表彰状贈呈式を執り行った。商工鉱業功労者(団体役員)には、鹿部商工会会長で吉建設㈱(鹿部)社長の吉康郎氏らが受賞。土屋俊亮副知事が受賞者一人ひとりに表彰状を手渡し=写真=、長年にわたる功績をたたえるとともに、さらなる活躍に期待を寄せた。

表彰は、商工鉱業功労者、認定職業訓練功労者、卓越した技能者の3つに分類される。うち吉氏が受賞した商工鉱業功労者(団体役員)は、同一の団体または関連団体で引き続き15年以上役職に就き、その功績が顕著な場合に表彰対象となる。

吉氏は、07年から鹿部商工会の会長を務め、この間に町内最大イベント「しかべ海と温泉のまつり」の実行委員会事務局として、歌謡ショーや3000発の花火大会など多彩なイベントを企画。地元をはじめ函館や札幌などから約3万人を集客するなど、地域経済の活性化につなげている。

さらに、プレミアム商品券販売促進事業を実施し地元の消費拡大に努めてきたほか、10年からは商工業者が商談会や物産展等に出店する際の費用の一部を助成。地元商工業者の経営支援に尽力するなど、商工会活動を通じ本道の産業経済の発展に貢献したことが高く評価された。

式では土屋副知事が受賞者に表彰状を授与。長年にわたる活動等を通じ、道内各地の振興・発展に寄与した功績をたたえた上で「これまで培ってきた豊かな知識、豊富な経験をさらに発揮していただき、それぞれの地域で経済を引っ張るけん引者として、北海道経済の活性化のために力添えを」と呼びかけた。

第9回ものづくり日本大賞

理研興業が優秀賞受賞

光るワイヤーロープ開発で

理研興業㈱(小樽、柴尾耕三社長)はこのほど、経済産業省、国土交通省等主催の第9回ものづくり日本大賞の優秀賞を受賞した。受賞件名はワイヤーロープ用視線誘導標(光るワイヤーロープ)=写真=の開発で受賞者は柴尾幸弘副社長ほか1人。同社は「ものづくりの原点に立って、必要とされる製品づくりを心がけていく」としている。

ものづくり日本大賞は、経産省、国交省、厚生労働省、文部科学省が連携し、2005年から開催されており、今回で9回目を迎える。

同賞は、製造・生産現場の中核を担っている中堅人材や伝統的・文化的な「技」を支えてきた熟練人材、今後を担う若年人材ら「ものづくり」に携わっている各世代の人材のうち、特に優秀と認められる人材を顕彰するもの。

優秀賞を受賞したワイヤーロープ用視線誘導線の開発は、ワイヤーロープに線状の発光体を3本巻き付けることで、ワイヤーロープ全体を線状に光らせる視線誘導標。道路の中央分離帯や路肩の防護柵として用いられているワイヤーロープに取り付けることで、ドライバーが道路の防護柵の位置を把握しやすくなり安全・安心な走行が可能になる。

従来の視線誘導標は点状で断続的な発光だが、同社開発の製品は線状のため連続的な発光で、目にも優しいのが特徴となっている。

また、同社の特許技術である回転移動体「理研スピンドル®」を使用することによって、手作業に比べて短時間で巻き付けることが可能となっている。

受賞を受け同社は「大変光栄。関係者ならびに協力いただいている皆さんの支援のたまもの」と謝意を示すとともに「今後とも、ものづくりの原点に立ち、必要とされる製品づくりを心がけ、より一層精進する」と決意を新たにしている。

安全体制の継続要請

十勝南部耕地安全協がパト

【帯広発】十勝総合振興局南部耕地安全連絡協議会(植村高愛会長)は12日、本年度2回目の会員相互現場安全パトロールを実施した=写真=。建築と客土工事各1現場を視察。高所作業時の安全対策などが施されていることを確認し、竣工までの安全体制の継続を求めた。

植村会長をはじめとする協議会員、鈴木国彦所長ら南部耕地出張所職員のほか、建災防帯広分会の安全指導員が参加した。

植村会長は「年間の労働災害件数は減ってはいるが、転落災害はいまだに件数が多い。今回のパトロールが未然に災害を防ぐことができるような活動となれば」と期待を寄せた。

鈴木所長は「重大事故として考えられる交通事故や高所作業時の転落などに対して、工事を安全に進めるためにも、皆さんの知見を借りながら安全対策を見ていきたい」と話した。

対象現場は「草地整備北清水円山地区63工区」(㈱平田建設施工)と「畑地帯大正北2ほか1地区72工区」(河井ローダー建設㈱施工)の2ヵ所。現場が離れていることから2班体制で各1現場を点検した。

北清水円山地区の現場では、出張所の監督職員らが掲示板や現場事務所内で書類点検を行ったあと、実際に現場を視察し、各種安全対策が施されていることを確認した。

鈴木所長は「これから高所での作業が続くと思うので、引き続き気を付けて作業してほしい」と呼びかけた。

事業概要や工事概要を紹介し、現場代理人が当日の作業内容について説明。安全

「えるぼし」企業の認定受ける

紀の國建設に3つ星

女性活躍推進 建設業で道内初

【函館発】紀の國建設㈱(函館、紀國隆二社長)が、道内の建設業で初となる「えるぼし」企業の認定を受けた。評価基準を全て満たす3段階目となるもので、北海道労働局が認定。女性が活躍できる環境を備えた企業として、3つ星のお墨付きを得た。

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定・届出を行った企業のうち、女性の活躍推進に関する状況が優良であるなど、一定の要件を満たしている場合に厚生労働大臣が認定する制度。①採用②継続就業③労働時間等の働き方④管理職比率⑤多様なキャリアコースーの5つを評価する。

具体的には「労働者に占める女性の割合が産業平均値以上」「女性の平均年数の比率が評価項目基準に達している」「管理職に占める女性の比率が産業平均値以上」「直近3事業年度に概ね30歳以上の女性を中途採用している」などで、これらの基準のうち1~2つを満たしている場合は1段階目、3~4つで2段階目、全て満たすと3段目の認定を受けられる。

同社は24人の従業員のうち、3分の1に当たる8人が女性。管理職にも複数の女性が就くなど女性の活躍推進を図っており、5つの評価基準全てをクリアした。

道内では21社目の認定で、道南地域では初。土木・建築業では道内初の認定となった。

紀國隆介専務は「今後も取組を継続し、女性が活躍できる場を提供していきたい」と話している。

道内建設業の22年死亡災は23件

官民一体で取組強化へ

道労働局 速報値を公表

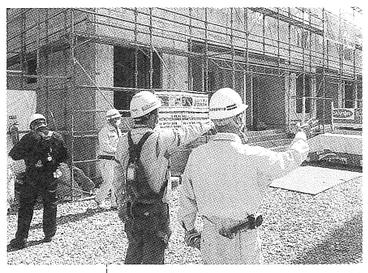
2022年の道内建設業の死亡災害が前年同期を3件上回る23件に上ることが道労働局の発表(速報値)で明らかになった。23年度からスタートする第14次労働災害防止計画では、死亡災害の発生率が高い建設業を重点業種と位置付け、墜落・転落防止を中心とした安全衛生管理の強化を引き続き進めていくことになる。

12月現在の速報値では、道内建設業で死亡災が前年同期と比べ3件増の23件、休業災が37件増の915件で、計938件発生した。

内訳は、死亡災が土木工事で2件増の13件、建築工事業で1件減の5件、木造建築業で1件減のゼロ、その他で3件増の5件。

一方、休業災は土木工事業で2件増の364件、建築工事業で11件増の366件、木造建築業で8件減の99件、その他で8件減の86件となっている。

22年死亡災害発生状況をみると、全産業では8件減少しているものの建設業では3件増加した。全体で建設業が占める割合は、46・9%となり、前年と比較し11・8ポイント上昇した。



建災防は全道各地でパトロールを実施している

22年の建設業における死亡災害発生要因は、墜落・転落が最多で約43%。道労働局では「足場からの墜落・転落は減少傾向にあるものの、足場以外のはしごや構造物からの落下による事故が増加している」と指摘する。

このため、次期計画においても建設業を死亡災害の重点業種と位置付け安全対策を一層進めていくことになる。

建設三大災害の防止に向け、官民一体となったさらなる取組が求められている。

WTO工事1件 24日開札に変更

札幌市水道局

札幌市水道局は、17日の開札を予定していたWTO対象の一般競争入札「平岸第1幹線耐震化その4№9-0012」について、質問回答内容に誤りがあったため、開札日を24日に変更した。

工事区域内除排雪に係るダンプトラック運転費の諸条件について「任意保険は控除」としていた回答を「任意保険は控除しない」と訂正。開札日のほか、入札補償金に関する記載文を変更している。

労働災害ゼロをめざして!

建設業労働災害防止協会
北海道支部

支部長 収一博善
副支部長 誠隆弘
同 川谷田﨑
同 中熊中山
同 剛弘利幸悟
専務理事 圭敏一孔
同 田原田田
同 岩坂萩中栗

札幌市中央区北4条西3丁目 北海道建設会館
電話(011)261-6187番